

夏秋トマトの裂果発生に着目した品種比較

○大塚美希・上谷麻梨恵・藤谷信二
(大分農林水産研指農研)

【目的】

大分県の夏秋トマト産地では、近年、高温や強日射等により裂果の発生による品質低下、収量減少が問題となっている。そこで裂果対策として、着果性に優れ、裂果しにくい品種の選定を行う。

【材料および方法】

試験は2012年、標高151m試験場内圃場にて行い、品種は「朝日和もえか」(朝日工業)、「華美」(丸種種苗)、「桃太郎セレクト」(タキイ種苗)、「みそら64」(みかど協和、対照)を用いた。裂果の発生の違いを見るために、7~8分着色で収穫、調査を行った。

【結果および考察】

最も裂果が少なかったのは対照区の「みそら64」で

あった。次いで「朝日和もえか」の裂果が少なく、品質、収量は「みそら64」と同程度であった。また「朝日和もえか」は果実が他品種よりも小さく、着果数が多かった(表1)。

「華美」は裂果が多く、可販果収量は少なかったが、食味調査では、甘味、うま味が強く評価が高かった(図1、図2)。

「桃太郎セレクト」は裂果と空洞果がよく見られた。

以上の結果より、「みそら64」、「朝日和もえか」が収量、品質が優れているため夏秋トマトの品種として有望であると考えられた。今後は、有望品種の選定を続けるとともに、良食味品種である「華美」の裂果を抑える技術を検討する予定である。

表1 収量、生育、品質について

品種	可販果数 (個/a)	可販果収量 (kg/a)	規格品率(%)				平均一果重 (g)	着果数 (個/果房)	裂果率 (%)
			A品	B品	C品	外品			
みそら64	4590 a	799 a	27	47	15	11	174 ab	2.3 ab	64 bcd
朝日和もえか	4566 ab	786 ab	26	31	24	18	172 bc	2.7 a	57 cd
華美	3080 bc	603 ab	8	21	32	39	197 ab	2.3 ab	83 a
桃太郎セレクト	3478 ab	658 ab	15	27	30	27	190 ab	2.2 ab	69 abc

品種	茎長 (cm)	茎径(mm)						節間長 (cm)	摘芯段数
		1段	3段	5段	7段	9段	11段		
みそら64	356 a	17 a	20 ab	19 c	16 ab	13 b	13 ab	7.7 c	13 a
朝日和もえか	354 a	16 a	17 cd	15 ab	14 bc	12 bc	12 bc	7.7 c	12 ab
華美	390 b	16 a	17 bc	16 ab	14 c	12 bc	12 c	8.6 ab	12 ab
桃太郎セレクト	349 a	18 a	18 bc	16 a	13 c	12 bc	11 c	8.1 bc	11 b

注1) Tukey法により異文字間には5%水準で有意差あり

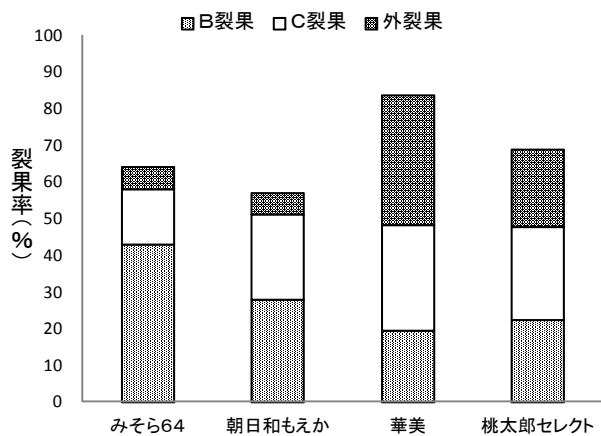


図1 規格別の裂果率

注1)B裂果:浅く、細く、果肉に達していないもの
C裂果:果肉に達し、果汁腐敗のないもの
外裂果:出荷できないもの

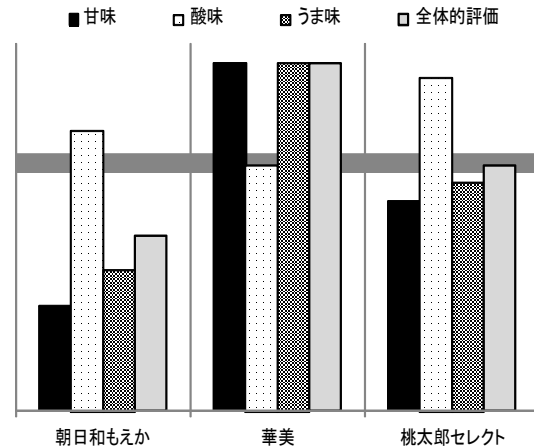


図2 食味調査結果

注1)みそら64を基準(評価3)とした5段階評価。被験者14人。